

第4回別海町ビブリオバトル

10/29

第4回別海町ビブリオバトルを生涯学習センターみなくで開催しました。町内全小中学校から各3名、計48名が代表として参加し、それぞれ工夫をこらしながら5分間の中でおすめの本を魅力的に紹介しました。

発表後、参加児童生徒による「1番読みたいと思った本」の投票を行い、小学校の部は中春別小学校が紹介した『先生、しゅくだいわすれました』、中学校の部は中春別中学校が紹介した『失敗図鑑』がチャンプ本に選ばれました。



尾岱沼・床丹・平成文化祭 総合作品展

10/28~30

尾岱沼・床丹・平成文化祭「作品展」を東公民館で開催しました。

本年度は8個人7団体328点の個性豊かな作品で会場を飾りました。



ホッキが寄贈されました

10/5

野付漁業協同組合(楠浩 代表理事組合長)から「ホッキ」86kgの寄贈がありました。

1cm程度にカットしたホッキを、カレーの材料として、10月6日に町内の小学校と中学校、認定こども園の給食に活用させていただきました。



リクエスト講座



11/2

東公民館のリクエスト講座として、床丹寿会から要望のあったボッチャ体験を、床丹ファミリースポーツハウスで実施しました。

「あそこを狙え!」「弾き飛ばせ!」など応援にも熱が入り、熱い試合を繰り広げ、コロナ禍で思うように活動ができない中、久しぶりに運動ができて楽しかったと充実した講座となりました。

アドベンチャースクール学習会 キャップハンディ体験

11/6

中央公民館のアドベンチャースクールの学習会として、キャップハンディ体験を実施しました。

生涯学習センターみなくに取り入れられている、ユニバーサルデザインの考え方を車いすや白杖、高齢者疑似体験を通して理解し、相手に寄り添う大切さを再認識しました。



第15回友好都市サミットin別海 「友好都市間の連携を一步前へ」

10月24日、友好都市サミット協議会を組織する各都市の首長、議長が生涯学習センターみなくるへ集い、第15回友好都市サミットが開催されました。

【友好都市サミットとは】

自然、風土、歴史、産業、文化などの都市性格の異なるまちが、それぞれのまちの特徴を生かし個性的で活力あるまちづくりを進めるため、交流を深め協力し合うことを目的として、大阪府枚方市、高知県四万十市、沖縄県名護市、そして本町の4市町で組織される協議会により開催されています。

■第14回友好都市サミット共同宣言を経た取り組みについて

前回第14回サミットにて取り組みを決定した「VR映像の作成と活用」について、4都市を代表して曽根町長が発表を行いました。

【VR映像とは】

スマートフォンなどの端末を用いて上下左右360度を自由に見渡すことができる映像で、遠隔地にいながらもその場所の魅力を感じることができます。

作成した映像はインターネット上でも公開されています。

今回の取り組みは「国立研究開発法人 情報通信研究機構」協力の下で行われました。



YouTubeチャンネル
「バーチャル体験学習」

■第15回友好都市サミット共同宣言

「友好都市間の連携を一步前へ」をテーマとし、各都市の首長、議長により、都市間の産業間連携や今後の友好都市のあり方について意見交換が行われ、各都市の特色ある民間事業者を巻き込み、さらなる経済波及効果増大を図る連携が必要であることを確認した上で「第15回友好都市サミット共同宣言」を締結しました。共同宣言書は町ホームページにて公開しています。

今後は、各都市の強みを生かし弱みを補い合う産業間連携を推進していく予定です。



町ホームページ
検索キーワード

友好都市サミット



問合せ／まちづくり推進担当（内線2216）

元気未来っ子

1歳6カ月児

（ ）内は保護者名
※希望された方を掲載しています。



坂野下 恵菜ちゃん
(雄平)

地域再生計画が 認定されました

地域再生制度とは、地域経済の活性化や地域における雇用機会の創出など、地域活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため、地域が行う自主的で自立的な取り組みを国が支援するものです。

地方公共団体は地域再生計画を作成し、内閣総理大臣の認定を受けることで、その計画に記載した事業の実施に当たり、財政や金融などの支援措置を活用することができます。

本町では、本年11月11日付けで、地域再生計画の認定を受けました。

問合せ／企画振興担当（内線2213・2214）